

## ZOOM発信・伝承文学あれこれ (11)・トンボやトンボ

2022年7月11日 (月) 20:00~21:00

酒井 董美 ただよし

トンボやトンボ・動物の歌 仁多郡奥出雲町上阿井

歌い手 山田カツノさん (明治17年生)

トンボやトンボ

麦わらトンボ 塩辛トンボ  
もち竿持っておまえは刺さぬ  
日向は暑い こち来てとまれ  
日陰で休め



収録日 昭和39年 (1964)  
8月11日

### 解説

特に男の子たちがトンボを捕るときに、この歌をうたいながら、トンボを追いかけたりする光景が目に見えかかってくるようである。

筆者が収録したものとしては、石見地方にももう一つあった。それは昭和39年5月11日にうかがったと記録している。

それは浜田市三隅町森溝のものであるが、「日陰で休め」のところだけ省略され、次のようにうたわれていた。

トンボやトンボ

麦わらトンボ 塩辛トンボ  
もち竿持つとも おまえは刺さぬ  
日向は暑い  
こち来てとまれ

記憶を辿ってみれば、たしかこの日、筆者は体調を崩して中学校勤務を休み、下宿の二階で就寝していた。

そうしていたらと、階段下で声がするので降りてゆくと金谷さんが見えており、「うたいに来ました」と言われ、体調もかなり回復していた筆者であったので、急いで録音機を取り出し、うたっていた歌の一つがこれであった。

このとき金谷さんは、次々と多数のわらべ歌や労作歌を押してくださった。それらは筆者のカセットの中に大切に保存されている。今思い出しても懐かしい一コマなのである。

なお、金田一春彦・安西愛子編『日本の唱歌・上』(講談社文庫)によれば、「もち竿持つとも」のところが「もちぎをもつとも」、「こち来てとまれ」が「こちきてあそべ」と変化している以外、全く同じ詞章で紹介されており、作詞者・作曲者・成立年代すべて不明であるとのことである。そして『童謡歳時記』の藤田圭雄氏によれば、関西地方で歌われていたわらべ歌の一種らしいと述べられている。

さらに、大正元年以降、東京神田にあった東洋幼稚園では、朝の時間の初めに全員でうたわれていた、とも記してあった。このようなどころを見ると、今日では分からなくなっているが、明

治時代ごろまでは、全国各地で広くこの類いの歌は、子どもたちによって盛んにうたわれていたのであろうと想定されるのである。

閑話休題。トンボの歌については、以前にも紹介しておいたが、昭和8年の月5日に収録した隠岐郡海士町御波には次の歌が存在している、

トンボ トンボ カメガラやるぞ  
トンボ トンボ カメガラやるぞ  
(濱谷包房さん・昭和3年生)

一方、鳥取県の収録は、一曲だけしか見つけていないが、昭和56年8月23日に八頭郡若桜町大野で次の歌をうかがっている。

トンボ トンボ とまれ  
この指 とまれ  
(兵頭ゆきえさん・大正5年生) (イラスト・福本隆男)

## 受講者からの反響など

—本講座、月曜日の懇話会を問わず参考になるものを氏名明記で掲載します。匿名はおこないません—

**7月5日** 先週「天人女房」の昔話がテーマでした。

おはようございます。

昨夜は七夕由来のいろいろなお話を伺うことができ、有意義な会でした。また、奈良の民話を奈良の方の語りでお聞きすることができ、嬉しく思いました。ありがとうございました。

その土地の民話はその土地の言葉で聞くのが一番です。でも、その土地の人ではない人が語る時は、共通語で語るのがいいのでね。そうわかっているけど、つい慣れない土地言葉で語る方が、そのお話の中に浸れるような気がするのです。気をつけたいと思いました。

昨夜の資料、わざわざQRコードをつけて資料お送り頂きありがとうございます。来年のたなばたさんには、この中から、共通語にして語りたと思います。

暑さ、台風による大雨と次々に災害がやってきますが、どうぞ御身体気をつけてお過ごし下さい。

次回のオンラインミニ講座、楽しみにしております。

東京 山浦敬子

## 酒井より

おはようございます。メールありがとうございます。

書承の語り手としての方言の扱いという、常に問題になる課題をご提示いただきよかったですと思います。

本で覚えた話を語る場合、語り手が自分の言葉にして語るべきですから、自然、普段使っている言葉で語るようになるのが自然だと思います。

それにしても奈良の井上さんの奈良弁、やわらかくてすばらしかったと思いました。

台風情報も流れ、日本列島も風の季節に入ったようです。お互い気をつけながら過ごしましょう。今度は木曜日にお買いしましょう。

お元気で。